

# 山行報告書

報告書作成

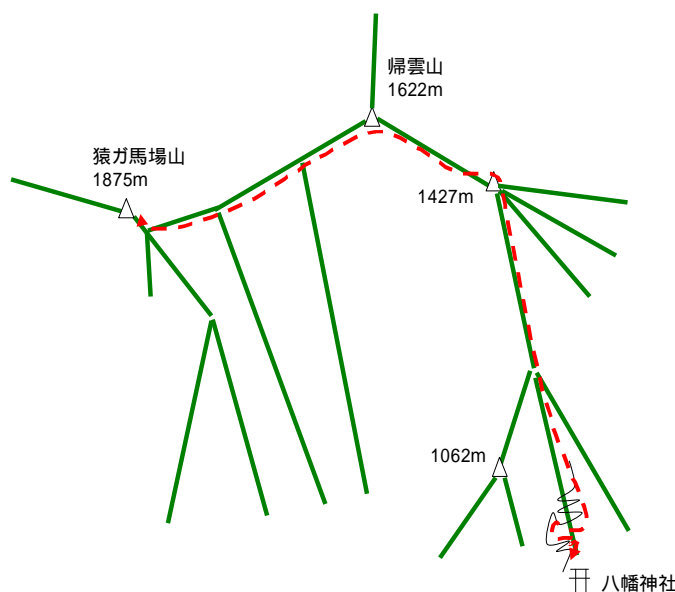
2007年3月28日

山名 [山域]	猿ガ馬場山 [飛騨]	目的と方法	山スキー
登山期間	3月21日(水) 快晴	山行形態	日帰り
参加人数	1名		

## 行動記録

自宅(240) == 豊田南IC(255) == 荘川IC(435) == 白川郷八幡神社裏(530,610) -- 帰雲山下部(1000)  
 -- 猿ガ馬場山(1135,1220) -- 帰雲山下部(1300) -- 八幡神社裏(1410,1430)  
 == 荘川IC(1510) == 豊田南IC(1700) == 自宅(1730)

## 概念図



## 日誌

ブナの原生林と頂上からの大展望、そしてさまざまな雪質、斜面の滑降、何度も訪ねてみたい山でした。それでは、猿ガ馬場山の行程を振り返ってみましょう。

家族が寝静まる深夜2時、こっそり起き出し、山スキーの準備です。今回は久々の単独行なので、マイペースにことは進んでいきます。高速に乗り、そう言えば、荘川IC以降にコンビニってあったかなと、少し不安になる。白川郷まで来てしまったが、結局コンビニはない。仕方がない、もう少し、先に行き、白川郷IC付近にあるだろうという淡い期待は現実となりました。タイムリーが文字通り救世主のごとくあるではないですか。行動食、飲料水等を確保し、八幡神社の裏側に行きます。車は3台ほど止まっており、かろうじて、1台分のスペースを確保しましょう。つぼ足の単独行の人と、軽く挨拶を交わし、さあ、出発です。林道を最初歩いていきますが、途中から藪の中をショートカット。堰堤を左から巻くと、再び林道です。植林と自然林が林道をはさんで分かれるところを少し進むと、谷筋に入っていきます。ブナの美しい静かな山旅です。上部の林道に再び出て、鞍部から稜線の右側を行きます。途中右手下方に鳩谷ダムを見ながら稜線に出ます。左手に帰雲山が見えてきました。(しかし、後でわかったことなのですが、これが猿ガ馬場山でした。)

ここからは稜線を行くとアップダウンがありますので、左側をトラバースしていきましょう。なかなか帰雲山につきませんね。と思っていると、行きに挨拶を交わしたつぼ足の人引き返してきました。今日は時間がないので、山頂はあきらめるとのことでした。ここで、帰雲山と思っていた山が猿ガ馬場山と判明しました。トホホ・・・、読図の力が足りません。気を取り直して、進みましょう。雪をまとったモンスター群の間を抜けると山頂です。白山方面が一望できます。しかし、白山は簡単にはお目見えまかり通らぬとばかり、ほんの少しですが霧がかかっています。北アルプス方面は、残念ながら、頭かくして何とやらです。それでは、雪のテーブルを作って、大休止としましょう。白山の稜線を見ていたら、南から北まで、縦走してみたくなりました。十分休んだら、いよいよお楽しみの時間です。シールを外してそれっといきましょう。斜滑降、ツリーラン、パウダー、そして恐怖のアイスバーン。様々な斜面を大転倒を交えて、今度は違う斜面を滑ってみようと思いながら帰途に着きました。